

ほのか診察室

HONOKA Consultation room



シリーズ
第65話

インフルエンザの ワクチンと治療薬について



市民病院薬局
主任薬剤師
本多 哲治

朝 夕もめっきり寒くなり、これからの時期はインフルエンザが猛威を振るう季節になります。皆さんはインフルエンザのワクチンをもう接種しましたか？「昨年、接種したから今年はしなくていいのでは？」「はやりはじめてから接種すればいいのでは？」といった質問を時々聞かれ

ますが、インフルエンザワクチンは、以下に示す2つの理由により、毎年継続して接種することが推奨されています。

一つ目の理由は、日本で使用されているワクチンが「不活化ワクチン」であり、効果が5カ月くらいしか持続しないことです。二つ目の理由は、流行が予想されるイ

ンフルエンザウイルスの種類が毎年異なることです。前年のワクチンの効果では、今年の流行に対応できない危険性があります。

また、インフルエンザは例年12月から3月ごろまで流行します。ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間程度を要しますので、12月中旬ごろまでに接種を受けることが望ましいと言われています。

インフルエンザワクチンを接種することで、インフルエンザの発症を予防し、発症しても軽症化させる効果があります。感染前にワクチンを接種して発症を予防することが、自分自身や家族など周囲へのインフルエンザ感染に対する有効な防御手段ですので、ワクチンの接種をまだされていない方は早急に行ってください。

もしインフルエンザにかかり、具合が悪いようならば早めに医療機関を受診しましょう。そして、水分を十分に補給し、安静にして休養（睡眠）を取りましょう。

医療機関では「インフルエンザ治療薬」が処方されることがありますので、その場合は指示に従っ

て服用または使用してください。「インフルエンザ治療薬」は、ノイラミニダーゼ阻害薬と言われ、現在は、「タミフル®」（内服薬）、「リレンザ®」（吸入薬）、「イナビル®」（吸入薬）、「ラピアクタ®」（注射薬）の4種類が使用されています。いずれの薬剤も発症後48時間以内に服用（投与）を開始することで、インフルエンザ症状が持続する期間を1日から2日程度短縮させて、呼吸器合併症や入院症例を減らす効果があります。服用が遅くなると薬の効果が出にくくなる場合がありますので、インフルエンザ治療薬の処方を受けたときは、早めに服用するようにしましょう。

なお、「タミフル®」については、服用後の異常行動などの副作用（原因や因果関係は現在調査中です）の関係から、10歳以上の未成年の患者の使用は原則として差し控えることになっています。小児・未成年者の服用については、処方時に医師や薬剤師などから副作用や服用時の注意事項をきちんと確認してから薬を服用するようにしてください。